

# 官報號外 昭和十七年二月五日

## ○第七十九回 貴族院議事速記録第八號

昭和十七年一月四日(水曜日)午前十時十分  
開議

議事日程 第八號

昭和十七年二月四日

午前十時開議

第一 米穀需給調節特別會計法中改正

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル  
商船ニ於ケル國旗取扱規則並船員服裝規則  
制定ノ請願外五件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ  
即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日本院ニ於テ當選シタル正副委員長ノ  
氏名左ノ如シ

南方開發金庫法案特別委員會  
委員長 伯爵兒玉 秀雄君  
副委員長 男爵深尾隆太郎君  
委員長 侯爵西郷 従徳君  
副委員長 子爵米田 國臣君  
國民更生金庫法中改正法律案特別委員會  
委員長 伯爵溝口 直亮君  
副委員長 男爵東久世秀雄君  
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 報告ヲ致サ  
セマス

〔高山書記官朗讀〕

一昨二日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提  
出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

大東亞戰爭ノ呼稱ヲ定メタルニ伴フ各法  
律中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル  
商船ニ於ケル國旗取扱規則並船員服裝規則  
制定ノ請願外五件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ  
即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日本院ニ於テ當選シタル正副委員長ノ  
氏名左ノ如シ

南方開發金庫法案特別委員會  
委員長 伯爵兒玉 秀雄君  
副委員長 男爵深尾隆太郎君  
委員長 侯爵西郷 従徳君  
副委員長 子爵米田 國臣君  
國民更生金庫法中改正法律案特別委員會  
委員長 伯爵溝口 直亮君  
副委員長 男爵東久世秀雄君  
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ  
昭和十七年度歳入歳出總豫算案竝昭和十  
七年度各特別會計歳入歳出豫算案  
豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲ス  
ヲ要スル件

昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案(第  
一號)

昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追  
加案(特第一號)

昭和十七年度歳入歳出總豫算追加案(第  
一號)

昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追  
加案(特第一號)

昭和十七年度歳入歳出總豫算追加案(第  
一號)

昭和十七年度各特別會計歳入歳出豫算追  
加案(特第一號)

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府  
提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨  
ノ通牒ヲ受領セリ  
簡易生命保險法中改正法律案  
同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通牒第79回帝  
國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受  
領セリ

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府  
提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨  
ノ通牒ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府  
提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨  
ノ通牒ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府  
提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨  
ノ通牒ヲ受領セリ

明治二十五年三月三十日  
第三種便物證

テ、大體ノ説明ヲ申上ガタイト存ジマス、  
先ヅ歳出豫算ノ金額ハ、本豫算計上ノ分六  
十二億三千五百餘萬圓、追加豫算第一號計  
上ノ分二十四億六千二百餘萬圓、追加豫算  
第二號計上ノ分一億三千九百餘萬圓、合計  
八十八億三千七百餘萬圓デアリマシテ、之  
ヲ前年度豫算額、既ニ成立致シマシタモノ  
ニ更ニ本議會ニ提出致シテ居リマスル追加  
豫算ノ金額ヲモ合セマシタ金額デアリマス  
ルガ、ソレニ比較致シマスレバ、一億七千  
九百餘萬圓ノ増加ト相成ツテ居リマス、尙右  
ノ昭和十七年度歳出總豫算額ニ、曩ニ本議  
會ニ於テ御協賛ヲ得マシタ臨時軍事費特別  
會計ノ追加豫算額百八十億圓ヲ加算致シマ  
スルト、二百六十八億三千七百餘萬圓デア  
リマスルガ、此ノ内兩會計間ニ於テ重複致  
シマス金額ヲ差引キ致シマスト、二百四十  
三億千百餘萬圓ト相成ル次第アリマス、  
昭和十七年度本豫算ノ編成ニ際シマシテハ、  
當時ノ情勢ニ顧ミマシテ、國策遂行ノ爲眞  
ニ已ムヲ得ザル經費ノ中、義務的經費若シ  
クハ之ニ準ズルモノ、又ハ從前ヨリノ施設  
ノ繼續ニ要スル經費デアリマシテ情勢ノ變  
化如何ニ拘ラズ引續キ必要ナルモノニ限定  
ヲ致シテ、之ヲ計上スルコトト致シタノデ  
アリマス、從ヒマシテ米英兩國ニ對スル戰  
端ノ開始ト共ニ、新情勢ニ即應致シマス爲  
ニ、戰時緊要ナル施策ノ實施ニ關スル經費  
ニ付キマシテ、追加豫算ヲ提案スルノ必要  
ガ生ジタノデアリマス、而シテ其ノ編成ニ  
當リマシテハ、重點主義ニ依リ物資、資金、

勞務等ノ政府需要ハ、戰勝ノ目的達成ノ爲ニ必要缺クベカラザルモノニ之ヲ集中スルモノニ限り之ヲ計上致シマシタ次第デアリマス、今本豫算及追加豫算ヲ通じテ、昭和十七年度豫算ノ編成上特ニ重點ヲ置キ新規經費トシテ計上致シマシタモノハ、第一、生産力擴充並ニ低物價維持ニ關スル經費デアリマス、即チ石炭增產對策等ニ要スル經費ノ增加、銑鐵買取價格補償ニ要スル經費等、合計三億八千三百餘萬圓デアリマス、尙右ノ外政府出資特別會計ニ於キマシテ、生産力擴充ニ資スル投資ト致シマシテ二億七千四百餘萬圓ヲ計上致シテ居ルノデアリマス、第二ハ、產業再編成ニ關スル經費デアリマス、即チ產業設備營團ニ關スル經費、中小商工業ノ再編成ニ要スル經費、轉廢業者援護ニ要スル經費、國民更生金庫損失補償金等、合計一億二百餘萬圓デアリマス、第三ハ、國民保健其ノ他國民生活及人口對策ニ關スル經費デアリマシテ、米穀生產獎勵金其ノ他主要食糧增產ニ關スル經費、國民健康保險ニ關スル經費ノ增加、日本醫療團設立ニ要スル經費、國民體力法施行ニ要スル經費等、合計三億八千百餘萬圓デアリマス、尙茲ニ一言申加ヘタキハ政府ハ國民保健ノ向上ト國民生活ノ維持安定ニ特ニ留意致シマシテ、今回ノ稅法改正ニ於テモ所得稅ノ課稅ニ當リ扶養家族ニ對スル控除金額ヲ二倍乃至三倍ニ増加シ、又官

公吏等ノ臨時家族手當ノ制度ヲ擴充致シマ  
シテ、支給家族數ノ制限ヲ撤廃シ、家族一  
人當支給額ヲ若干増加シテ、以テ多子家庭  
ヲ保護シ人口政策ニ資セムト致シタノデア  
リマス、第四ハ、重要物資ノ貯藏ニ關スル  
經費ト致シマシテ、重要食糧貯藏施設ニ要  
スル經費、重要物資管理ニ要スル經費等、  
合計五千餘萬圓デアリマス、第五ハ、軍人  
援護ニ關スル經費ト致シマシテ、軍事扶助  
費ノ增加、傷痍軍人保護ニ要スル經費、軍  
人援護事業助成ニ要スル經費等、合計一億  
三千五百餘萬圓デアリマス、第六ハ、科學  
及技術ノ振興ニ關スル經費ト致シマシテ、  
技術院ニ關スル經費、科學技術ノ刷新向上  
ニ要スル經費、研究試作費補助ニ要スル經  
費、官立無線電信講習所設立ニ要スル經費、  
航空機乘員養成ニ關スル經費等、合計五千  
六百餘萬圓デアリマス、第七ハ、防空ニ關ス  
ル經費ト致シマシテ、防空設備資材整備費  
補助ニ要スル經費、防空實施ニ要スル經費  
等、合計三千六百餘萬圓デアリマシテ、何  
レモ現下ノ時局ニ顧ミ緊急差措キ難キ經費  
ヲ計上致シタモノデアリマス、尙國庫豫備  
金ニ付キマシテハ、豫算超過又ハ豫算外支  
出ノ増加ノ必要ニ備フル爲之ヲ増額致シマ  
シテ、本豫算及追加豫算ヲ通ジ、既定額ト  
合ハセテ第一豫備金五千萬圓、第二豫備金  
八億圓ト致シタノデアリマス、又臨時軍事  
費特別會計ヘノ繰入金額ハ、一般會計ニ於  
キマシテハ本豫算及追加豫算第一號ヲ通  
ジ、合計二十五億二千五百餘萬圓デアリマ

ズ、之ニ各特別會計ニ於テ本豫算及追加豫算特第一號ヲ通ジ計上致シマシタ金額、合計五億一千四百餘萬圓ヲ加ヘマスレバ、總計三十億四千餘萬圓ニ上リマシテ、前年度ニ比較致シ十九億一千八百餘萬圓ノ増加ト相成ル。次第アリマス、次ニ既定經費ニ付キマシテハ、嚴密ナル再検討ヲ行ヒ、極力壓縮ヲ加ヘマシタル結果、文治各省ノ所管ニ於テ三億八百餘萬圓ノ減少トナツタノデアリマス、尙陸海軍兩省所管ノ經費ニ付キマシテハ、部隊艦船ニ於テハ勿論、其ノ他各部ニ於ケル諸般ノ實情ニ鑑ミ、今回ハ大部分ヲ臨時軍事費支辨ト致シマシタ爲、既定經費ニ於キマシテ三十六億六千八百餘萬圓ヲ減少致シテ居ルノデアリマス、次ニ歲入豫算ニ付説明ヲ致シマス、一般會計歲入豫算ノ金額ハ、本豫算計上ノ分六十二億四千八百餘萬圓、追加豫算第一號計上ノ分二十四億五千餘萬圓、追加豫算第二號計上ノ分一億三千九百餘萬圓、合計八十八億三千七百餘萬圓デアリマシテ、其ノ内譯ハ本豫算及追加豫算ヲ通計致シ、租稅其ノ他ノ普通歲入ガ七十二億五千七百餘萬圓、借入金ガ五千四百萬圓、公債金ガ十五億二千六百餘萬圓デアリマス、普通歲入ノ大宗タル租稅收入ハ、經常臨時ノ各部ヲ合セマシテ其ノ總額五十七億六千餘萬圓デアリマス、之ヲ前年度豫算額ニ比較致シマスレバ、十八億九千七百餘萬圓ノ増加ト相成ツテ居リマス、此ノ中、前年度ニ於ケル間接稅等ノ增稅ニ基キマスル分ガ四億六千百餘萬圓デアリ

マス、本期議會提案ニ係ル直接稅等ノ増稅ニ基ク分ガ九億六千七百餘萬圓デアリマス、自然增收等ニ屬スル分ガ四億六千八百餘萬圓デアリマス、尙本年度租稅收入豫算額ヲ、事變前即チ昭和十一年度ノ租稅收入豫算額九億六千五百餘萬圓ニ比較致シマスレバ、實ニ六倍ニ相成ツテ居ルノデアリマス、租稅以外ノ普通歲入ノ增加ノ中顯著ナルモノヲ申上げマスレバ、印紙收入ノ增加ガ增稅ノ分ヲモ含メマシテ一千七百餘萬圓、森林收入ノ增加ガ二千餘萬圓、專賣局益金ノ增加ガ一億三千四百餘萬圓、日本銀行納付金ノ增加ガ五千百餘萬圓等デアリマス、次ニ借入金ハ、陸軍航空工廠資金臨時補足ノ財源トシテ三千五百萬圓、陸軍工廠資金臨時補足ノ財源トシテ千萬圓、及ビ木炭需給調節特別會計置運轉資本臨時補足ノ財源トシテ九百萬圓ヲ豫定致シテ居ルノデアリマス、又公債金收入ハ、震災善後公債百餘萬圓、道路公債千七百餘萬圓、歲入補填公債十五億七百餘萬圓、計十五億二千六百餘萬圓デアリマシテ、前年度ニ比シ十四億七千七百餘萬圓ノ減少ト相成ツテ居ルノデアリマス、右一般會計ニ於ケル公債發行豫定額ニ、朝鮮、臺灣、帝國鐵道、通信事業及政府出資ノ各特別會計ニ於ケル公債發行豫定額合計八億三千百餘萬圓、及ビ曩ニ御協賛ヲ經マシタ臨時軍事費財源タル公債發行豫定額百四十億餘萬圓ヲ加ヘマスレバ、本年度歲出財源タル公債發行豫定總額ハ、百六十三億五千元八百餘萬圓ト相成ルノデアリマス、次ニ

各特別會計豫算ニ於キマシテモ、本豫算及追加豫算ヲ通ジ、ソレハ、前ニ申述ベマシタル一般會計豫算ノ編成方針ニ準據シ、極力節約ヲ旨トシ、時局ニ鑑ミ眞ニ緊急缺クベカラザル經費ヲ計上致シタ次第アリマス、政府ハ曩ニ開戦ノ宣セラレマスルヤ、直チニ金融等ニ關スル非常對策ヲ講ジ、又戰爭保險臨時措置法ヲ制定スル等、戰時ニ於ケル經濟界ノ混亂ヲ避ケ、國民生活ノ維持安定ヲ期スル爲必要ナル措置ヲ執ツタノデアリマスルガ、開戦後茲ニ二箇月近ク相成リマスルガ、皇軍ノ赫々タル大戰果ノ下ニ國民ノ志氣ハ愈、旺盛デアリマシテ、我ガ經濟界ハ極メテ平靜ニ推移シ、諸般ノ非常對策モ殆ド其ノ實施ノ要ヲ見ザルガ如キ狀況ノ下ニ戰爭第二年ヲ迎ヘ得マシタコトハ誠ニ慶賀ニ堪ヘナイ所デアリマス、是レ實ニ御稜威ノ下、我ガ忠勇ナル陸海軍將兵ノ力戰奮闘ノ賜デアリマシテ、衷心ヨリ感謝致シマスルト共ニ、尊キ護國ノ英靈ニ對シ敬弔ノ意ヲ表スルモノデアリマス

末ノ四十九億三千餘萬圓ニ比シ、十三億百  
餘萬圓ノ増加ヲ示シタノデアリマスルガ、  
越年後ニ於ケル收縮狀況ハ極メテ順調デア  
リマス、銀行預金ハ昨年中ニ六十六億千百  
餘萬圓ヲ増加致シテ居リマス、郵便貯金ハ  
同期間ニ十六億五千餘萬圓ノ増加ヲ示シテ  
居リマス、又起債界モ順調ニ推移致シマシ  
テ、昨年中ノ社債新規發行額ハ二十六億四  
千九百餘萬圓ノ多額ニ上ツタノデアリマス、  
昨年中ニ於ケル國債ノ發行額ハ八十七億八  
千二百萬圓ニ上ツタノデアリマスルガ、同  
年中ニ於テ其ノ八割三分九厘、七十三億六  
千六百餘萬圓ヲ消化致シタノデアリマス、  
又支那事變發生以來本年一月末日迄ノ國債  
發行總額二百十五億六千百餘萬圓ノ中、消  
化致シマシタ額ハ二百三十億九千七百餘萬  
圓デアリマシテ、八割三分八厘ノ消化率ヲ  
示シ相當ノ成績デアリマス、併シナガラ昭  
和十七年以降ニ於キマシテヘ、國債發行豫  
定額ハ益々巨額ニ達スルノデアリマシテ、國  
債ノ完全ナル消化ニ努ムルコト愈々緊要トナッ  
テ居ル次第デアリマス、戰時財政ノ運營上  
租稅ノ重要ナルコトハ申ス迄モナイノデア  
リマスルガ、銚後國民ノ熱烈ナル愛國的精  
神ハ、納稅ニ付キマシテモ遺憾ナク發揮セ  
テ良好デアリマスルコトハ誠ニ感激ニ堪ヘ  
ナイ所デアリマス、而シテ政府ニ於キマシ  
テハ財政ノ需要竝ニ國民生活及國民經濟ニ  
及ス影響等ニ付慎重考究ヲ遂ゲ、稅制ノ全

般ニ瓦ル増稅計畫ヲ樹立シマシテ、曩ニ早急實施ヲ要スルト認メラル、酒稅其ノ他ノ間接稅ヲ中心トスル增稅案ノ御協賛ヲ得マシテ、既ニ實施致シテ居ルノデアリマスルガ、今回更ニ増加スル臨時軍事費ノ財源ニ充テコトト致シ、之ニ必要ナル稅法ノ改正案ヲ今期議會ニ提出致シテ居ルノデアリマス、本邦ノ對外貿易ニ關シマシテハ、昨年七月ノ米英蘭諸國ノ對日資產凍結ニ次イデ、今次大東亞戰爭ノ勃發ニ依リ米英蘭諸國トノ經濟關係ハ完全ニ斷絶スルニ至ツタノデアリマスルガ、滿支方面トノ貿易ハ堅實ナル步調ヲ示シテ居リマス、又佛印及「タイ」トノ貿易ガ、輸出入共著シキ增加ヲ示シテ居リマスコトハ、大東亞共榮ノ見地カラ心強ク感ズル次第デアリマス、斯クノ如ク我が對外經濟活動ハ専ラ大東亞共榮圈ノ地域ニ集中セラレルコトト相成リマシタノニ伴ヒ、共榮圈内ニ於ケル物資ノ計畫的交流ヲ圖ルコトハ刻下ノ急務ト相成ツタノデアリマシテ、茲ニ國際金融ノ部面ニ於テモ過去ノ政策ニ一大轉換ヲ加ヘ、新タナル構想ノ下ニ新事態ニ即應スペキ政策ヲ速カニ實施スルノ必要ヲ見ルニ至ツタノデアリマス、即チ第三國トノ間ノ國際收支ノ均衡保持、及ビ米英兩國ニ依存シテ運營セラレテ居リマスル時代ニ於キマシテハ、重要ナル意義ヲ有ル從來ノ爲替政策ハ、我が國ノ對外經濟ガシテ居ツタノデアリマスルガ、今ヤ米英經濟

トノ關聯ヲ一擲シ、大東亞ヲ打ッテ一丸トス  
ル國防經濟力ノ強化充實ヲ圖ルベキ當面ノ  
急務ニ應ズル爲ニハ、共榮圈内ニ於ケル物  
資ノ交流ヲ圓滑ナラシムルト共ニ、資源ノ  
開發ヲ急速ニ促進セシムルニ必要ナル金融  
上ノ措置ニ重點ヲ置クベキモノニアリマス、  
政府ハ斯カル見地ヨリ、昨年末米英貨ニ基  
準ヲ置ク從來ノ爲替相場ヲ廢止致シマシテ、  
日本圓ヲ中心トスル自주의換算率ヲ公定致  
シタノデアリマス、更ニ今後ニ於テハ、南  
方諸地域ニ於ケル米英ノ金融勢力ヲ一掃シ、  
是等ノ地域ノ通貨ハ其ノ價值基準ヲ漸次日  
本圓ニ置カシムルコトトシ、各地域間ノ決  
済ハ日本圓ヲ通ジ東京ニ於テ行ハル、方式  
ヲ馴致致シ、以テ我ガ國ヲ中心トスル大東  
亞金融圈ノ設定ニ努ムル所存ニアリマス、  
從來我が國ハ、日滿華ヲ打ッテ一丸トスル  
綜合的見地ニ立脚シテ生産力ノ擴充ニ努メ  
テ參ッタノデアリマスルガ、更ニ進ンデ此  
ノ豊富ナル南方資源ヲ、最モ速カニ最モ效  
率的ニ開發取得シテ、當面ノ戰爭遂行ニ寄  
與セシムルト共ニ、大東亞共榮圈内ノ自給  
自足體制ヲ確立スルノ肝要ナルコトハ申ス  
迄モアリマセヌ、即チ一面敵ノ兵力ヲ擊碎  
シツ、一面資源ノ開發ヲ促進スルコトガ目  
前ノ急務デアリマス、是等ノ諸點ニ鑑ミマ  
シテ、政府ハ南方資源ノ開發利用ニ必要ナ  
ル資金ヲ圓滑ニ供給シ、南方諸地域ノ通貨  
金融政策ノ圓滑ナル運營ヲ期スルガ爲ニ、  
先般御説明申シマシタ如ク新タニ南方開發  
金庫ヲ設立セムト致スモノニアリマス、右

申述ペマシタル爲替換算率ノ自主的公定ト、日本銀行ノ對外金融ヘノ進出態勢トハ、我ガ國ヲ中心トスル大東亞共榮圈ノ金融施策ニ付テ一步ヲ進メルモノデアリマス、而シテ南方諸地域ニハ、我ガ軍票ハ到ル處住民ノ歡迎ヲ受ケ極メテ圓滑ナ流通ヲ見テ居リマシテ、南方開發金庫ノ設立竝ニ中央及現地ニ於ケル各般ノ施策ト相俟テ南方諸地域ニ於ケル通貨金融ニ關シ、當面ノ措置ヲ講じ得ル態勢ヲ整ヘムトスルモノデアリマス、戰時下國家總力ノ發揮ニ遺憾ナカラシムル爲ニハ、一面極力資金ノ蓄積ニ努ムルト共ニ、其ノ蓄積セラレタル資金ノ統制的運用ヲ行ヒ、以テ之ガ最モ效果的ナ活動ヲ爲サシムルコトガ緊要デアリマス、之ガ爲各種金融機關ノ機構ノ整備ヲ必要トスルノデアリマスルガ、此ノ際先づ中央發券銀行タル日本銀行ヲシテ、我ガ國通貨金融制度ノ中核トシテ政府ト一體的關係ニ立チ、國策ノ嚮導所ニ即シテ通貨ノ調節、金融ノ調整及信用制度ノ保持育成ノ責ニ任ゼシメ、進ンデキハ大東亞共榮圈全體ノ金融ノ中心タルベキ任務ヲ果サシムルノ體制ヲ整備致シマスルコトガ最モ必要デアルト存ズルノデアリマス、仍テ政府ハ今回日本銀行制度ノ根本的改正ヲ行ヒ、尙時勢ノ進運ニ應ズル爲日本銀行券ノ兌換制度ヲ廢止シ、完全ニ金ヨリ離脱シタル管理通貨制度ヲ採用スルコトヲ明カニ致シタノデアリマス、併シナガラ此ノ改正ハ既成事實ヲ確認シタルモノデアリマシテ、

イノデアリマス、又金融統制及資金活用ノ  
徹底ヲ期スルガ爲ニハ、進ンデ法的基礎ニ  
基キ金融機關ノ團體的機構ヲ整備シ、金融  
機關ヲシテ團體ノ自律力ヲ活用シテ政府  
ノ金融統制ニ一段ト積極的ニ協力セシムル  
コトが適當デアルト認メラレルノデアリマ  
ス、仍テ政府ハ目下國家總動員法ニ基キ金  
融事業ノ統制ヲ目的トスル團體ヲ設立セシ  
ムル爲、必要ナル準備ヲ進メテ居ル次第デ  
アリマス、軍需產業生産力擴充產業、其ノ  
他國家緊要產業ニ對スル資金ノ圓滑ナル供  
給ヲ圖ルコトハ、戰時金融ノ主眼點デアリマ  
ス、從ツテ我ガ國ニ於ケル各種金融機關ハ、  
舉ガテ此ノ方面ニ努力ヲ致スベキデアリマ  
シテ、從來商業金融ヲ主トシタル銀行等ノ  
職能モ、戰時ノ事業金融ニ轉換シ、謂ハバ  
全金融機關ガ戰時金融機關タル性質ヲ帶ビ  
ツ、アルノデアリマス、併シナガラ戰時緊  
要事業ノ一部ニハ、其ノ性質上、是等既存  
ノ金融機關等ノ通常ノ方法ニ依ル資金ノ供  
給ノミニテハ尙不十分ト認メラマスル場  
合ガ相當ニ多イノデアリマス、且此ノ種資  
金ノ需要ハ將來一層增大スペキ趨勢ニアリ  
マスルノデ、政府ハ此ノ目的ノ爲必要ナル  
資金ニシテ他ノ金融機關等ヨリ供給ヲ受ク  
ルコト困難ナルモノニ付テハ、新タニ特殊  
ノ金融機關ヲ設置シ、之ヲシテ供給セシム  
ルヲ戰時金融ノ整備強化上適當ト認メマシ  
テ、今期議會ニ戰時金融金庫法案ヲ提出致  
シタノデアリマス、而シテ以上ニ述ベマシ  
タ日本銀行ノ改組、金融統制團體ノ組織及

ビ戰時金融金庫ノ設立、更ニ外ニハ南方開  
發金庫ノ設立ニ依リ、從來ノ金融機關ト相  
俟テ、茲ニ戰時金融ノ責ニ任ズベキ金融機  
構ノ整備ヲ見タルモノト言ヒ得ルト存ズル  
ノデアリマス、有價證券ノ價格ノ適正安定  
ヲ圖ルコトハ、生産力擴充資金其ノ他産業  
資金ノ疏通ト、國民貯蓄ノ保護ノ上ヨリ見  
テ頗ル緊要デアリマス、此ノ見地ニ基キ政  
府ハ從來有價證券ノ價格、特ニ株式價格ノ  
安定ニ關シマシテハ各般ノ施策ヲ講ジ來タッ  
タノデアリマスガ、今後トモ行過ギタル思  
惑等ニ基ク過當ナル騰落ハ共ニ之ヲ抑ヘ、  
著シキ變動ハ出來得ル限リ之ヲ避クルヤウ  
致シタイト存ズルノデアリマス、又保險會  
社ニ付キマシテハ、從來ヨリ國民生活ノ維  
持安定ニ資スルト共ニ必要ナル資金ノ蓄積  
配分ニ寄與スル處大ナルモノガアリマスル  
ノデ、政府ハ今後モ努メテ新機軸ヲ發揮セ  
シムルヤウ指導致シ、其ノ機能ノ擴充ニ努  
メル方針デアリマス、我ガ國ガ大東亞ノ天  
地ニ大規模ナル戰爭ヲ繼續スルコト既ニ四  
年有半、而モ我ガ國ノ國防經濟力ハ年ト共ニ  
著シキ增强ヲ來タシテ居リ、加フルニ南方諸  
地域ノ豐富ナル資源ノ開發利用ヲ完ウシ得  
ルニ於テハ、我ガ經濟界ノ前途ハ眞ニ希望  
莫大ナル資材、勞力、技術及輸送力が必要  
トナルノデアリマス、是等ノ生産力擴充ニ  
要スル資金ト、一面今後益々增加スル戰費ト

ハ頗ル巨額ニ達スルノデアリマス、而シテ  
他面莫大ナル戰費撒布ニ依ル民間資金ヲ回  
收致シ、以テ國民經濟ノ運行ヲ確保スルコ  
トガ愈々緊要デアリマシテ、之ガ資金ノ回収、  
蓄積ニ遺憾ナカラシムル爲ニハ、其ノ大部  
ヲ國民貯蓄ノ増強ニ俟ツノ外ハナイノデア  
リマス、全國民ハ各其ノ分ニ應ジタル納稅  
ニ依リ、國家ノ必要トスル戰費等ノ調達ニ  
貢獻スルノ外、尙現在ニ幾層倍スル努力ヲ  
以テ生產勤勞ニ勵ムト共ニ、消費生活ハ最  
低限度ニ切詰メ、其ノ餘剩ハ擧ゲテ之ヲ貯  
蓄ニ振向ケルコトガ絶對ニ必要デアリマス、  
此ノ國民貯蓄ニ依ヅテコソ、戰費ノ調達、生  
產力擴充資金ノ供給方始メテ可能トナルノ  
ミナラズ、同時ニ國民貯蓄方順調ニ増加シ  
ツ、アル事實コソ、戰時財政經濟政策ノ圓  
滑ナル運營ト其ノ綜合的成果ヲ反映スル  
指針ニ外ナラナイト存ズルノデアリマス、  
我々ハ米英兩國政府ガ、緒戰ノ打擊ニモ拘  
ラズ、其ノ廣大ナル綜合國力ヲ傾注シテ、  
長期ニ瓦リ飽ク迄モ抗爭ヲ續ケ來タルモノ  
ナルコトヲ覺悟致シテ、之ニ對シテ徹底的  
ニ戰ヒ抜キ、完全ナル勝利ヲ得マシテ、以  
テ大東亞其榮閣ヲ確立スル堅キ決意ノ下ニ  
綜合的ニシテ且雄大ナル構想ニ基ク各般ノ  
財政經濟政策ヲ樹立致シマシテ、萬邦ニ冠  
タル一億國民ノ祖國ニ對スル熱愛ヨリ發ス  
ル絶大ナル努力ト無限ノ忍耐トニ依リ、之  
案ニ付キマシテハ何卒速カニ御審議ノ上協

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第一、米穀  
需給調節特別會計法中改正法律案、日程第  
二、木炭需給調節特別會計据置運轉資本臨  
時補足ニ關スル法律案、日程第三、食糧管  
理法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、  
是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御  
異議ハゴザイマセヌ力  
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕  
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認  
メマヌ、賀屋大藏大臣  
〔左ノ案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ  
タメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕  
米穀需給調節特別會計法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十七年二月三日

貴族院議長 田子 一民  
衆議院議長 田子 一民

本法ハ昭和十七年度ヨリ之ヲ施行ス  
昭和九年法律第二十九號附則第二項ヲ削  
ル  
國債整理基金特別會計法第一條第四項中  
「米穀證券ヲ「食糧證券」ニ改メ同法ニ左  
ノ一條ヲ加フ  
第十三條 第二條第四項ノ規定ノ適用  
ニ付テハ米穀證券ハ之ヲ食糧證券ト  
看做ス  
木炭需給調節特別會計据置運轉資本臨  
時補足ニ關スル法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十七年二月三日

貴族院議長 田子 一民  
衆議院議長 田子 一民

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十七年二月三日

第六條 本會計ニ於テハ食糧ノ賣渡代金  
借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入ト  
シ食糧ノ買入代金、食糧ノ買入賣渡交  
換貸付交付加工製造貯藏及運搬ニ關ス  
ル諸費、證券及借入金ノ償還金及利子  
其ノ他諸費ヲ以テ其ノ歲出トス  
第六條ノ一中「米穀ノ數量又ハ市價ノ變  
動ニ基ク」ヲ「食糧ノ」ニ改ム  
附 則  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
衆議院議長 田子 一民  
食糧管理法案  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
衆議院議長 田子 一民  
食糧管理法案  
第一條 本法ハ國民食糧ノ確保及國民經  
濟ノ安定ヲ圖ル爲食糧ヲ管理シ其ノ需  
給及價格ノ調整並ニ配給ノ統制ヲ行フ  
コトヲ目的トス  
第二條 本法ニ於テ主要食糧トハ米穀、  
大麥、裸麥、小麥其ノ他勅令ヲ以テ定  
ムル食糧ヲ謂フ  
第三條 米穀、大麥、裸麥又ハ小麥(以  
下米麥ト稱ス)ノ生産者又ハ土地ニ付  
權利ヲ有シ小作料トシテ之ヲ受クル者  
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又  
ハ小作料トシテ受ケタル米麥ニシテ命  
令ヲ以テ定ムルモノヲ政府ニ賣渡スベ  
シ  
前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格  
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ生産費及物價  
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ買入レタル米麥ヲ食  
糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ賣渡ス

モノトス

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ賣渡ノ價格

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ家計費及物價

其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ

米麥以外ノ主要食糧ノ買入又ハ賣渡ヲ

爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣

渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第六條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ

主要食糧ノ輸入若ハ移入ヲ目的トスル

買入又ハ輸出若ハ移出ヲ目的トスル賣

渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣

渡ノ價格ハ政府之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主

要食糧ノ貸付又ハ交付ヲ爲スコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食

糧ノ貯藏、交換、加工又ハ製造ヲ爲ス

コトヲ得

第八條 第三條第一項ノ者ハ同項ノ規定

ニ依リ其ノ者ガ政府ニ賣渡スペキ米麥

ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受ク

政府ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ

検査ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食

糧ニ付検査ヲ受クベキコトヲ命ズルコ

トヲ得

第九條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルト

キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ

調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ

配給、加工、製造、讓渡其ノ他ノ處分、

使用、消費、保管及移動ニ關シ必要ナ

ル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルト

キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ

價格、加工質又ハ製造ノ料金ニ關シ必

要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 米麥ノ輸出若ハ移出又ハ輸入

若ハ移入ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ

除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレ

バ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ米

麥ヲ輸入又ハ移入シタル者ハ命令ノ定

ムル所ニ依リ其ノ輸入又ハ移入シタル

米麥ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ政

府ニ賣渡スペシ

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格

ハ政府之ヲ定ム

政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅

令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ米麥

以外ノ主要食糧ノ輸出若ハ移出又ハ輸

入若ハ移入ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ

得

第十二條 政府ハ必要アリト認ムルトキ

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ

得

第十三條 主要食糧ノ生産費、生産高、

現在高及移動ノ調査、家計費ノ調査其

ノ他主要食糧ノ管理ヲ行フ爲必要ナル

調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ

之ヲ定ム  
政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ調査ヲ行フ爲必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當

該官吏若ハ更員ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他

ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第十四條 食糧營團ハ法人トシ政府之ヲ監督ス

食糧營團ハ中央食糧營團及地方食糧營團トス

食糧營團ニ非ザル者ハ食糧營團又ハ之

ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十五條 中央食糧營團ハ政府ノ定ムル食糧配給計畫ニ基キ主要食糧ヲ配給スルト共ニ政府ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス

食糧配給計畫ニ基キ主要食糧ヲ配給ス

ルト共ニ政府ノ指定スル食糧ヲ貯藏ス

ル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス

一 主要食糧ノ買入

二 地方食糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ對スル主要食糧ノ賣渡

三 政府ノ指定スル主要食糧ノ貯藏

四 政府ノ指定スル主要食糧ノ加工、製造及保管

五 前各號ノ事業ニ附帶スル事業

六 前各號ノ外中央食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業

中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ必要

ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ

ニ置ク

第十六條 中央食糧營團ノ資本金ハ一億圓トシ之ヲ二百萬口ニ分チ一口ノ出資金額ヲ五十圓トス但シ資本金ハ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

政府ハ五千萬圓ヲ限り中央食糧營團ニ出資スルコトヲ得

中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ得ズ

中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受クベシ

要食糧ノ配給上必要ナル事業ヲ行フベシ

キコトヲ命ジ其ノ他業務ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ中央食糧營團ニ對シ主

要食糧ノ配給上必要ナル事業ヲ行フベシ

第三條ノ七、第三條ノ八第一項第二項

第十七條 中央食糧營團ハ定款ヲ以テ出資者ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

第十八條 中央食糧營團ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上及監事三人以上及評議員若干人ヲ置キ政府之ヲ命づ

第十九條 中央食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス

本文及第三條ノ九ノ規定ハ前項ノ倉荷證券ニ付之ヲ準用ス但シ同法第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中

商業組合倉庫證券トアルハ食糧營團倉庫證券トス

第二十二條 中央食糧營團ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限り食糧營團債券ヲ發行スルコトヲ得

政府ハ食糧營團債券ノ元利支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十三條 中央食糧營團ハ販賣ノ目的ヲ以テ買入ル者ニ主要食糧ヲ賣渡ストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ主要食糧ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

政府ハ主要食糧ノ配給上特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ同項ノ指示ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十四條 中央食糧營團ノ解散及清算

第二十五條 地方食糧營團ハ地方長官（樺太廳長官ヲ含ム以下同ジ）ノ定ムル

食糧配給計畫ニ基キ地方的ニ主要食糧ヲ配給スル共ニ地方長官ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス

地方食糧營團ノ名稱、資本金及主タル事務所ノ所在地ハ政府之ヲ定ム

地方食糧營團ノ名稱ニハ其ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣ノ名（樺太ニ在リテハ樺太）ヲ冠ス

政府ハ樺太ニ地方食糧營團ヲ設立セシムル場合ニ於テハ八百萬圓ヲ限り之ニ出資スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出資ハ樺太廳特別會計ノ歲出トシ之ニ因リ取得シタル出資

證券ハ同會計ノ所屬物件トス

第十六條 第三項ノ規定ハ第四項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十六條 中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ地方食糧營團ニ出資スルコトヲ得

第十六條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十七條 地方食糧營團ニ理事長一人、理事三人以上、監事一人以上及評議員若干人ヲ置キ地方長官之ヲ命ズ

第二十八條 地方食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス

一 主要食糧ノ買入及賣渡  
二 地方長官ノ指定スル食糧ノ貯藏  
三 地方長官ノ指定スル主要食糧ノ加工及製造

四 前各號ノ事業ニ附帶スル事業

五 前各號ノ外地方長官ノ指定スル主要食糧ノ保管其ノ他地方食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業

地方食糧營團前項第四號又ハ第五號ノ認可ヲ受クベシ

第二十九條 第十五條第三項、第十七條、第十九條第三項、第二十條、第二十一

條、第二十三條及第二十四條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス

第三十條 農地開發法第八條、第十條乃至第十四條、第十七條、第十九條、第二十條後段、第二十一條、第二十二條

第二項第三項、第二十五條乃至第二十

七條、第二十九條乃至第三十七條及第

三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ食糧營團ニ付之ヲ準用ス

營團ニ付之ヲ準用ス但シ同法第十二條第一項、第十三條第二項、第二十一條

第二十七條、第三十五條、第三十七條第

二項、第三十九條、第四十條第一項及第

四十一條中主務大臣トアルハ政府トシ同法第十九條第二項中副理事長ヘトアルハ

地方食糧營團ニ付テハ理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リトシ同法第四十條中農地開發

營團監理官トアルハ食糧營團監理官トス

第三十一條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ徵役又ハ一萬圓以下ノ罰

金ニ處ス

一 第三條第一項又ハ第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル禁止若ハ

制限ニ違反シタル者又ハ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入シタル主要食糧ニシ

テ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十四條 第二十三條第一項（第二十九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 不正ノ手段ニ依リ第八條ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケザル者

三 第十三條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

四 第三十六條 第十三條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ検査ヲ拒ミ、妨

ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰

金ニ處ス

第三十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ

人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其

ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一

條、第三十二條、第三十四條又ハ第三十五條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行

爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十八條 食糧營團ノ總裁、副總裁、

ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ザルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十九條 前條第一項ニ掲タル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十條 食糧營團本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁、理事長、總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル理事ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第四十一條 食糧營團ノ總裁、副總裁、理事長又ハ業務ヲ分掌スル理事第三十條ニ於テ準用スル農地開發法第二十一條ノ規定ニ違反シ他ノ職務ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

反シ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ  
用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス  
第四十三條 本法ノ一部ハ勅令ノ定ムル  
所ニ依リ之ヲ権太ニ適用セザルコトヲ  
得

権太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナ  
ル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設  
クルコトヲ得

附 則

第四十四條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ  
付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 左ニ掲タル法律ハ之ヲ廢止  
ス

一 農產物検査法

二 米穀統制法

三 米穀自管理法

四 米穀配給統制法

五 粮共同貯藏助成法

六 政府所有米穀特別處理法

七 昭和九年法律第五十二號

八 昭和十二年法律第九十號

前項ニ掲タル法律廢止前當該法律ノ罰  
則ヲ適用スペカリシ行爲ニ付テハ仍從  
前ノ例ニ依ル第一項ニ掲タル法律ノ廢  
止ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之  
ヲ定ム

第四十六條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中央  
食糧營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セ  
シム

第四十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政  
府ノ認可ヲ受クベシ

政府ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第十九條第一項ニ掲タル事業ト同種ノ事業ヲ行フ株式會社、商業組合、商業組合聯合會、工業組合又ハ工業組合聯合會ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ對シ其ノ解散ヲ命ズルコトヲ得  
前項ノ命令ヲ受ケタル法人ハ中央食糧營團成立ノ時解散スルモノトシ其ノ権利義務ハ中央食糧營團之ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ他ノ法令中解散及清算ニ關スル規定ハ之ヲ其ノ法人ニ適用セズ  
第四十八條 前條第一項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ政府ノ引受ケタル出資及勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ同條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ株式又ハ出資ニ引當テタル出資ヲ控除シタル殘餘ノ出資ニ付キ出資者ヲ募集スベシ  
政府ハ前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ食糧配給事業評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受ケバシ  
設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ  
シ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員  
ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ中央食糧營團總  
裁ニ引渡スベシ  
中央食糧營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因  
リテ成立ス

第五十條 本法ニ規定スルモノノ外中央  
食糧營團ノ設立及第四十七條第二項ノ  
命令ニ係ル法人ノ解散ニ關シ必要ナル  
事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 前五條ノ規定ハ地方食糧營  
團ニ付之ヲ準用ス但シ第四十七條第一  
項中第十九條第一項トアルハ第二十八  
條第一項トス

第五十二條 第四十七條第三項ノ規定ニ  
依リ解散シタル商業組合又ハ商業組合聯合  
會ノ發行シタル倉荷證券アルトキ  
ハ之ヲ當該商業組合又ハ商業組合聯合  
會ノ權利義務ヲ承繼シタル食糧營團ノ  
發行シタル倉荷證券ト看做ス

第五十三條 登錄稅法中左ノ通改正ス  
第五條ノ二 中央食糧營團為食糧營團  
債券ニ付登記ヲ受ケルトキハ左ノ區  
別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ  
一 食糧營團債券又ハ其ノ第二回以  
後ノ拂込

毎回拂込金額 千分ノ二

一 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止

毎一件

金十圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各  
號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金二  
圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第十九條第七號中「農地開發營團」ノ  
下ニ「食糧營團」ヲ、「農地開發法」ノ  
下ニ「食糧管理法」ヲ加フ

第五十四條 印紙稅法第五條中第五號ノ  
二ヲ第五號ノ三、第五號ノ三ヲ第五號  
ノ四トシ第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ二 食糧營團ノ發スル出資證券及  
食糧營團債券

第五十五條 產業組合中央金庫法第十五  
條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 食糧營團其ノ他農林水產業ニ關  
スル事業ヲ營ム法人ニ對シ主務大

第五十六條 商工組合中央金庫法第二十  
九條第一項第三號中「又ハ自動車運送  
事業組合聯合會」ヲ、「自動車運送事業  
組合聯合會又ハ食糧營團」ニ改ム

第五十七條 第十四條第三項ノ規定施行  
ノ際現ニ食糧營團又ハ之ニ類似スル名  
稱ヲ使用スル者ハ同項ノ規定施行後六  
月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要  
ス

第四十二條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ  
同項ノ者ニ適用セズ

〔國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(賀屋興宣君) 只今議題トナリ

マシタ三案ノ中、米穀需給調節特別會計法  
中改正法律案及ビ木炭需給調節特別會計法  
置運轉資本臨時補足ニ關スル法律案ニ付キ

マシテ、其ノ提案ノ理由ヲ説明致シマス、  
先づ米穀需給調節特別會計法中改正法律案  
ニ付申上ゲマス、今回米穀等ニ關スル諸法  
律ヲ整備致シマシテ食糧管理法ヲ制定致シ  
マスルニ伴ヒマシテ、從來ノ米穀需給調節  
特別會計法ノ名稱ヲ變更致シマスル等ノ必  
要ガアリマスルノト、之ニ關聯シテ國債整  
理基金特別會計法中改正ヲ爲ス必要ガアリ  
マスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次  
第ニアリマス、次ニ木炭需給調節特別會計  
法置運轉資本臨時補足ニ關スル法律案ニ付  
說明申上ゲマス、木炭需給調節ノ實狀ニ顧  
ミマスルニ、現在ノ木炭需給調節特別會計  
ノ据置運轉資本百萬圓ヲ以テ致シマシテハ、  
同特別會計ノ圓滑ナル運營ヲ圖ルコト困難  
トナリマシタノデ、九百萬圓ヲ限り臨時之  
ヲ補足シ、現行ノ据置運轉資本百萬圓ト合  
シテ千萬圓ト爲シ、之ガ財源ハ借入金ニ依  
ルコト致シマスル爲、本法律案ヲ提出致

シマシタ次第ニアリマス、以上二件ノ法律  
案ニ付キマシテハ、何卒御審議ノ上速カニ  
協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス  
○議長(伯爵松平頼壽君) 井野農林大臣  
〔國務大臣井野頼哉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(井野頼哉君) 只今議題トナリ  
テ提出ノ理由ヲ説明致シマス、本法律案提  
出ノ理由ハ三ツノ點ニ歸スルノデアリマス、

其ノ第一ハ、主要食糧ノ國家管理體制ノ強  
化ヲ圖ル必要ガアルコトニアリマス、現在、  
政府ハ米麥ノ管理制度ヲ實施シテ居ルノデ

アリマスルガ、大東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒマ  
シテ、長期戰體制ニ即應シ、銳後國民ノ生  
活安定ノ上カラ見マシテモ、亦農山漁村ノ  
健全ナル發達ノ上カラ見マシテモ、此ノ管  
理制度ヲ一層強化シ、農民ガ安ンジテ増産  
ニ邁進シ得ルヤウ、生産セラレタル米麥ハ  
必ズ政府ガ之ヲ買上ダルト云フ熊勢ヲ明カ  
ニスルコトガ緊要デアルト信ズルノデアリ  
マス、第二ハ、主要食糧ノ配給機構ヲ整備  
セムトスルコトニアリマス、即チ現下ノ食  
糧事情ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ、從來

殆下米ノミニ依存シタ配給ヨリ、主要食糧  
ヲ打ッテ一丸トシタ綜合的配給ニ移行スル必  
要ガアリマスルト共ニ、配給機構其ノモノ  
モ亦之ニ即應シタル公共的ナル機構ニ制度化  
スル必要ガアルノデアリマス、之ガ爲中央及  
地方ニ食糧營團ヲ創設セシメマシテ、主要  
食糧ノ綜合配給ニ關スル事業ヲ擔當セシメ  
ムトスルモノニアリマス、第三ハ、非常時  
用食糧ノ貯藏ノ問題デアリマス、從來、政府  
ハ空襲等ノ緊急事態ニ備フル爲、非常時用  
食糧ノ分散貯藏ヲ實施セシメツ、アルノデ  
アリマスルガ、貯藏機關ハソレトノ物資  
シテ實施セシメ、何時如何ナル緊急ノ場合  
ニ於キマシテモ萬遺憾ナキヲ期セムトスル  
モノニアリマス、其ノ他、米麥ノ管理制度

ノ強化ニ伴ヒ、其ノ検査制度等モ、政府ノ  
買上検査ノ如キ意味ヲ多分ニ持ツヤウニナ  
リマシタノデ、此ノ趣旨ニ即應スル如キ制  
度ニ改メ且其ノ豫算ノ協賛ヲモ御願致シテ  
居ルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシ  
テ本法律案ヲ提出致シマシタ次第ニアリマ  
ス、何卒御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラ  
レムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
米穀需給調節特別會計法中改正法律案外二  
件ハ、特別委員ノ數ヲ二十五名トシ其ノ委  
員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致  
シマス  
○子爵戸澤正己君 贊成  
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議  
ニ御異議ハゴザイマセヌカ  
〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕  
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス  
〔佐藤書記官朗讀〕  
二件特別委員  
公爵一條 實孝君 侯爵前田 利爲君  
侯爵德川 賴貞君 伯爵酒井 忠正君  
子爵富小路隆直君 子爵織田 信恒君  
子爵安藤 信昭君 子爵松平 康春君  
河井 眞八君 内田 重成君  
子爵土岐 章君 宇佐美 勝夫君  
男爵大藏 公望君 横山 助成君  
男爵三須 精一君 男爵坊城 俊賢君  
男爵杉溪 由言君 宮田 光雄君

地ヲ有スルモノヲ謂フ

一 未成年者タル被管理者ニ對シ親權ヲ行フ者（親權ヲ行フ者ナキトキハ

有賀 光豐君 千石興太郎君  
山上 岩二君 二瓶泰次郎君  
佐々木長治君 佐藤助九郎君  
柴田兵一郎君

後見人又ハ後見人の職務ヲ行フ者）

二 禁治產者タル被管理者ノ後見人

第四條第一項中「年齢二十年ニ達セザルモノ」ヲ「年齢二十六年ニ達セザル男子及

年齡二十年ニ達セザル女子」ニ改メ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限り在ラズ

同條第二項中「前項ノ被管理者」ヲ「前項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル被管理者（以下第四條第一項ノ被管

理者ト稱ス）」ニ改ム

第五條第一項中「前條第一項ノ規定ニ依

リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル」ヲ「第

四條第一項ノ」ニ、同條第二項中「被管理

者ニシテ前條第一項ノ規定ニ依リ體力檢

査ヲ受クルコトヲ要スルモノ」ヲ「第四條

第一項ノ被管理者」ニ改ム

第六條 第四條第一項ノ被管理者（同條

第二項ノ規定ニ依ル義務者アル場合ハ

其ノ義務者）ハ被管理者ノ氏名、生年月

日其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ヲ被管

理者ノ居住地ノ市町村長ニ届出ヅベシ

但シ命令ヲ以テ定ムル被管理者ニ關シ

テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條ノ二 地方長官ハ國民體力ノ向上

ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條第一項ノ

第三條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左

ニ掲グル者ニシテ本法施行地内ニ居住

被管理者ニ非ザル者ニ付テモ體力検査

ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ體力検査ハ第五條第二項ノ學校

又ハ幼稚園ニ在學又ハ在園スル者ニ關

スル場合ヲ除クノ外地方長官之ヲ行フ

但シ事宜ニ依リ同條第一項ノ規定ニ準

ジ市町村長又ハ事業主若ハ管理人ヲシ

テ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條第二項、第五條第二項、第十條乃

至第十二條、第十三條及第十四條ノ規

定ハ第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受

クルコトヲ要スル者ニ關シ、第八條第

二項乃至第四項ノ規定ハ第一項ノ規定

ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要シ又

ハ要シタル者ニシテ體力手帳ノ交付ヲ

受ケタルモノニ關シ之ヲ準用ス此ノ場

合ニ於テハ第四條第一項、第八條第四

項、第十一條又ハ第十二條中保護者ト

アルハ第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ

體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ニシ

テ未成年者又ハ禁治產者タルモノニ付

親權ヲ行フ者、後見人タル者又ハ後見

人ノ職務ヲ行フ者ニシテ本法施行地内

ニ居住地ヲ有スルモノトシ第十三條第

一項中第五條第一項トアルハ第六條ノ

二第二項トシ第十三條第二項中第五條

第一項、第六條トアルハ第六條、第六

條ノ二第二項トス

第八條第一項中「被管理者」ヲ「第四條第

一項ノ被管理者」ニ、同條第三項中「前二

項ヲ「前四項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ

左ノ二項ヲ加フ

第四條第一項ノ被管理者ノ體力検査ノ

結果ハ體力手帳ニ之ヲ記載スルモノト

ス第十條乃至第十二條ノ規定ニ依リ體

力向上ニ關スル指導若ハ指示ヲ爲シ又

ハ療養ニ關スル處置ヲ命ジタルトキ亦

同ジ

命令ヲ以テ定ムル體力ニ關スル検査ヲ

行フ者體力手帳ノ交付ヲ受ケタル第四

條第一項ノ被管理者ヲ検査シタルトキ

ハ其ノ結果ヲ體力手帳ニ記載スベシ醫

師體力手帳ノ交付ヲ受ケタル第四條第

一項ノ被管理者ニ付命令ヲ以テ定ムル疾

病ニ罹レルモノト診斷シタルトキ亦同ジ

第九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

國民體力管理醫ハ其ノ職務ノ執行ニ當

リテハ國民體力ノ向上ニ關スル國策ノ

遂行ニ努ムルヲ旨トスベシ

第十一條及第十二條第一項中「體力検査」

ノ下ニ「命令ヲ以テ定ムル體力ニ關スル

検査又ハ他ノ法令ニ依ル醫師ヨリノ患者

診斷ノ届出」ヲ加フ

第十二條ノ二 主務大臣又ハ地方長官ハ

體力検査ニ基キ國民體力ノ向上ヲ圖ル

爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ

定ムル所ニ依リ公共團體其ノ他ノ法人

又ハ團體ニ對シ體力向上ニ關シ處置又

ハ施設ヲ爲スコトヲ指示スルコトヲ得

第十三條第一項中「第十條乃至前條」ヲ

「第十條乃至第十二條」ニ、同條第二項中

「第八條第一項第二項及第十條乃至前條」



何人ト雖モ前條ノ規定ニ依ル専門ノ標榜ノ外技能、治療方法、經歷又ハ學位

ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ズ但シ醫師又ハ齒科醫師ノ稱號及命令ヲ以テ定ムル診療科名ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

主務大臣ハ前項ニ規定スルモノノ外醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ制限ス

ル爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十五條 醫師又ハ齒科醫師第五條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

醫師又ハ齒科醫師第六條各號ノ一二該當シ又ハ醫師若ハ齒科醫師タルノ品位ヲ損スル行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業若ハ齒科醫業ヲ停止スルコトアルベシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同ジ

前項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルベシ第一項ノ取消處分ヲ受ケタル者ニ付第五條第二號ノ原因止ミタルトキ亦同ジ

前項前段ノ規定ニ依リ再免許ヲ受ケタル者主務大臣ノ定ムル期間内ニ於テ第六條第一號又ハ第二號ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ再免許ハ效力ヲ失フ

第一項乃至第三項ノ處分ハ主務大臣之ヲ行フ

### 第三章 醫師會及齒科醫師會

第十六條 日本醫師會、道府縣醫師會、日本齒科醫師會及道府縣齒科醫師會ノ設立ノ手續、

醫療及保健指導ノ改良發達ヲ圖リ國民體力ノ向上ニ關スル國策ニ協力スルヲ

以テ目的トス

日本醫師會、道府縣醫師會、日本齒科醫師會及道府縣齒科醫師會ハ法人トス

第十七條 醫師又ハ齒科醫師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣齒科醫師會ヲ設立スベシ

醫師又ハ齒科醫師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣齒科醫師會ノ會員トス

第十八條 醫師又ハ齒科醫師ニ非ザルモ醫師免許又ハ齒科醫師免許ヲ受クル資格ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ道府縣醫師會又ハ道府縣齒科醫師會ノ會員タラシムルコトヲ得ルモノトス

第十九條 道府縣醫師會又ハ道府縣齒科醫師會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本醫師會又ハ日本齒科醫師會ヲ設立スベシ

日本齒科醫師會ノ會員トス

第五章 日本醫療團

第二十條 日本醫療團ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必

要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三十一條 日本醫療團ノ資本金ハ一億圓トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ得

本醫師會、道府縣醫師會、日本齒科醫師會及道府縣齒科醫師會ノ設立ノ手續、區域、機關、經費ノ負擔及其ノ徵收、監督、會員ノ懲戒其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 主務大臣又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）必要

アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ病院、診療所及產院ニ臨檢シ其ノ構造設備又ハ診療錄其リテハ警視總監）ノ許可ヲ受クベシ

前項ニ規定スルモノノ外病院、診療所及產院ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 主務大臣國民體力ノ向上ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫療關係者ト爲リタル者ヲシテ一年以内主務大臣ノ指定スル業務ニ從事スペキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條 本章ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十五條 本章ニ規定スル主務大臣ノ健婦、助產婦及看護婦ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ醫療關係者ヲシテ一年以内主務大臣ノ指定スル業務ニ從事スペキコトヲ命ズルコトヲ得

第十七條 本章ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條 本章ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十九條 本章ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十條 本章ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十一條 痘院、診療所又ハ產院ヲ開設セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ノ許可ヲ受クベシ

前項ニ規定スルモノノ外病院、診療所及產院ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 主務大臣國民體力ノ向上ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫療關係者ト爲リタル者ヲシテ一年以内主務大臣ノ指定スル業務ニ從事スペキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ハ初テ醫療關係者ト爲リタル時ヨリ一年以内ニ之ヲ爲スモノトス

第二十三條 主務大臣國民體力ノ向上ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ醫療關係者ニ對シ醫療、保健指導、助產及看護ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫療關係者ヲシテ醫療、保健指導、助產及看護ニ關シ必要ナル事項ノ修習ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 前四條ニ規定スルモノノ外日得

増加スルコトヲ得

第三十二條 政府ハ一億圓ヲ日本醫療團ニ出資スベシ

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第三十三條 第三十一条但書ノ場合ニ於

テハ勅令ヲ以テ定ムル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有スル病院、診療所又ハ產院ノ設備及其ノ附屬設備ヲ出資スルコトヲ得

第三十四條 日本醫療團ハ出資ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ出資證券ヲ發行ス

第三十五條 出資者ハ日本醫療團ノ承認ノ經ルニ非ザレバ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ズ

第三十六條 日本醫療團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ  
一 目的  
二 名稱  
三 事務所ノ所在地  
四 資本金額、出資及資産ニ關スル事項

第五十七條 日本醫療團ニ關スル事項  
一 業務及其ノ執行ニ關スル事項  
二 醫療債券ノ發行ニ關スル事項  
三 會計ニ關スル事項  
四 公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第三十七條 日本醫療團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十八條 日本醫療團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本醫療團ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第三十九條 日本醫療團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 日本醫療團ニ非ザル者ハ日本醫療團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第四十一條 民法第四十四條、第五十條、手續法第三十五條第一項ノ規定ハ日本醫療團ニ之ヲ準用ス

第四十二條 日本醫療團ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク

第五十條 日本醫療團病院、診療所又ハ產院ノ設備ノ讓渡又ハ貸付ニ付權原ヲ有スル者ト協議ヲ爲スモ協議調ハザルコトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第四十五條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 日本醫療團ニ參與理事ヲ置キ地方長官ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充

第五十條 日本醫療團病院、診療所又ハ產院ノ設備ノ讓渡又ハ貸付ニ付權原ヲ有スル者ト協議ヲ爲スモ協議調ハザルコトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ニ其ノ讓受又ハ借受ニ付決定ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條 前項ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 前項ノ決定中對價ニ付不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日

團ノ業務ヲ掌理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキヘ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ日本醫療團ヲ代表シ總裁及副總裁ヲ輔佐シテ日本醫療團ノ業務ヲ掌理ス

總裁共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁及副總裁共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ代

理シ總裁及副總裁共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ代

ノ職務ヲ行フ

監事ハ日本醫療團ノ業務ヲ監査ス

第四十三條 總裁、副總裁、理事及監事ハ主務大臣ヲ命ズ

第四十四條 總裁、副總裁及理事ハ定款ノ任期ハ二年トス

第四十五條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第四十六條 日本醫療團ハ左ノ業務ヲ行フ

一 痘院、診療所及產院ノ經營

二 前號ノ病院、診療所及產院ノ醫療關係者ノ指導及鍊成

三 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ニ掲グル業務以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

第四十七條 日本醫療團ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付總裁ノ諸問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第四十八條 日本醫療團ニ顧問若干人ヲ置キ總裁ノ推薦ニ依リ主務大臣之ヲ命ズ

顧問ハ業務ニ關スル重要ナル事項ニ參畫セシム

第五十九條 日本醫療團ハ左ノ業務ヲ行フ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付總裁ノ諸問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第五十條 日本醫療團ハ主務大臣ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 前項ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 前項ノ決定中對價ニ付不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日

以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
前三項ニ規定スルモノノ外決定及之ニ  
依ル病院、診療所又ハ産院ノ設備ノ讓  
渡又ハ貸付ニ關シ必要ナル事項ハ勅令  
ヲ以テ之ヲ定ム

前四項ノ規定ハ病院、診療所又ハ産院ノ事業ノ譲渡又ハ貸付ニ之ヲ準用ス

第五十一條 日本醫療團ハ前條ノ規定ニ  
依リ讓受ケタル病院、診療所又ハ產院

ノ設備又ハ事業ノ代價ニ付テハ國債證

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ

ヲ定ム

第五十二條 日本醫療團ハ第四十九條ニ  
規定スル業務ノ用ニ充ツル爲必要ナル

土地、建物其ノ他ノ工作物又ハ土地ニ  
關スル所有權以外ノ權利ヲ收用又ハ使

用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依ル敷用又ハ使用ニ關シ

# テハ土地收用法ヲ適用ス

タル出資金額ノ五倍ヲ限り醫療債券ヲ

第五十四條 醫療債券八額面金額五十圓

以上トシ無詔名和村附トノ但シ應募者  
又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコ

## トテ得

スルコトヲ得

第五十五條 日本醫療團ハ醫療債券借換ノ爲一時第五十三條ノ制限ニ依ラズ醫療債券ヲ發行スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ醫療債券ノ發行シタルトキハ發行後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊醫療債券ヲ償還スベシ

第五十六條 政府ハ醫療債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第五十七條 醫療債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五十八條 日本醫療團ニ於テ醫療債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十九條 醫療債券ノ消滅時效ハ元本ニ在リテハ十五年、利息ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第六十條 醫療債券ノ所有者ハ日本醫療團ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨ダルコトナシ

療債券ニ之ヲ準用ス

第六十一條 所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ醫療債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 前九條ニ規定スルモノノ外醫療債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ

第六十三條 日本醫療團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス

第六十四條 日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政  
府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ減額シ  
又ハ之ヲ爲ザザルコトヲ得

第六十五條 日本醫療團ハ左ノ方法ニ依  
ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコト  
ヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコ  
ト

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又  
ハ郵便貯金ト爲スコト

第六十六條 日本醫療團ハ設立ノ時及每  
事業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對  
照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ  
之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ  
掲タル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第六十七條 日本醫療團ハ主務大臣之ヲ  
監督ス

第六十八條 日本醫療團ハ主務大臣ノ認  
可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ヲ處分ス  
ルコトヲ得ズ

第六十九條 日本醫療團ハ毎事業年度ノ  
初ニ於テ事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ認  
可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ  
亦同ジ

第七十條 主務大臣ハ日本醫療團ニ對シ  
業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシ  
メ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル  
命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
ル施設ヲ爲スコトヲ命ぜルコトヲ得

第七十一條 主務大臣ハ日本醫療團ニ對  
シ結核ノ療養其ノ他國民醫療ニ必要ナ  
ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違  
反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタル  
トキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ  
得

第七十二條 總裁、副總裁、理事又ハ監事  
ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違  
反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタル  
トキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ  
得

第七十三條 政府ハ日本醫療團ニ對シ每  
年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付  
スルコトヲ得

第六章 罰則

第七十四條 第八條第一項ノ規定ニ違反  
シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓  
以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者醫師若ハ歯科醫  
師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモ  
ノナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓  
以下ノ罰金ニ處ス

第七十五條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リ  
タル者故ナク第二十六條ノ規定ニ依ル  
診療錄ノ検査ニ關シ知得シタル醫師若  
ハ歯科醫師ノ業務上ノ祕密又ハ個人ノ  
祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲  
役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

職務上前項ノ祕密ヲ知得シタル他ノ公



第九十一條 定款ニ付主務大臣ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資ノ第一回ノ拂込ヲ裏請ベシ

第九十二條 出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ日本醫療團總裁ニ引繼グベシ

第九十三條 日本醫療團ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第九十四條 結核豫防法中左ノ通改正ス  
第七條第一項中「前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所」ノ上ニ「日本醫療團ノ結核療養所又ハ」ヲ加フ

第九十五條 登錄稅法中左ノ通改正ス  
第二條ノ二 日本醫療團ガ病院、診療所又ハ產院ノ用ニ供スル不動產ニ關スル權利ノ取得又ハ保存ニ付登記ヲ受クルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ其ノ登錄稅ノ額ハ不動產價格ノ千分ノ一トス

第六條ノ二中「恩給金庫カ恩給債券ニ付」ヲ「恩給金庫又ハ日本醫療團カ恩給債券又ハ醫療債券ニ付」ニ、「恩給債券又ハ其ノ」ヲ「恩給債券若ハ醫療債券又ハ其ノ」ニ改ム

第十九條第七號中「住宅營團」ノ下ニ「日本醫療團」ヲ「住宅營團法」ノ下ニ「國民醫療法」ヲ加フ  
同條第十八號中「又ハ住宅營團」ヲ「住

宅營團又ハ日本醫療團」ニ改ム

第九十六條 印紙稅法中左ノ通改正ス  
第五條第六號ノ四ノ次ニ左ノ一號ヲ加六ノ四ノ二 日本醫療團ノ發スル出資證券並ニ國民醫療法第四十九條第一項第一號及第二號ノ業務ニ關スル證書帳簿

フ 第五條第六號ノ四ノ次ニ左ノ一號ヲ加六ノ四ノ二 日本醫療團ノ發スル出資證券並ニ國民醫療法第四十九條第一項第一號及第二號ノ業務ニ關スル證書帳簿

一項第一號及第二號ノ業務ニ關スル證書帳簿

要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ診療錄其ノ他ヲ

帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第十二條中「政府」ヲ「國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ」ニ改ム

第十三條 左ノ各號ノニ該當スル事業所ニ使用セラル者ハ健康保險ノ被保

險者トス

一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場

二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ工場

三 法人又ハ命令ヲ以テ定ムル團體ノ事務所ニシテ常時五人以上ノ從業員ヲ使用スルモノ

四 左ニ掲グル事業ノ事業所ニシテ常時五人以上ノ從業員ヲ使用スルモノ

五 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業

六 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

七 電氣又ハ動力ノ發生、傳導又ハ供給ノ事業

八 貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業

九 貨物積卸ノ事業

十 物販賣ノ事業

十一 金融又ハ保險ノ事業

十二 物保管又ハ賃貸ノ事業

十三 媒介周旋ノ事業

(ス) 集金、案内又ハ廣告ノ事業

(ル) 其ノ他勅令ヲ以テ指定スル事業

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノニ該當スル者ハ健康保險ノ被保

險者トセズ

一 船員保險ノ被保險者（勅令ヲ以テ指定スル者ヲ除ク）

二 一年ノ報酬ガ勅令ヲ以テ定ムル額ヲ超ユル職員

三 臨時ニ使用セラル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

五 前條ノ規定ニ依リ健康保險ノ被保險者タルベキ者ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ國民健康保險ノ被保險者トセズ

六 第十四條 第十三條ニ規定スル事業所以外ノ事業所ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラル者ヲ包括シ健康保險ノ被保險者トセズ

七 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

八 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

九 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十一 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十二 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十三 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十四 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十五 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十六 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十七 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十八 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

十九 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム

二十 第十五條第一項中「事業」ヲ「事業所」ニ、同條第二項中「第十三條但書」ヲ「第十三條ノ二」ニ改ム





前六項ニ定ムルモノノ外第二項ノ規定施行ノ際必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

労働者年金保険法中左ノ通改正ス

第十六條及第十八條中「工場、事業場又ハ事業」ヲ「事業所」ニ改ム

第十七條第一項中第二號ヲ左ノ如ク改メ第三號及第四號ヲ削ル

二 健康保険法第十三條ノ事業所以外ノ事業所ニ使用セラル者

第十八條中第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 前條第一項第二號ノ事業所ト爲ルニ至リタルトキ

二十四條第三項、第三十二條第二項及第三十七條第二項中「工場、事業場若

ハ事業」ヲ「事業所」ニ改ム

國民健康保険法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十七年二月三日

衆議院議長 田子 一民

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

國民健康保険法中改正法律案

國民健康保険法中左ノ通改正ス

第十一條第二項ヲ削ル

第十一條ノ二 地方長官必要アリト認ム

健康保険組合ノ組合員タル資格ヲ有スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ普通國民

第十九條ノ三 保險醫又ハ保險藥劑師ハ薬剤ノ支給ヲ受クルモノトス

第十九條ノ二 療養ノ給付ヲ受ケントスル者ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ組合員ト爲ラザルモノトス

特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ前二項ノ規定ニ拘ラズ組合員ト爲ラザルモノトス

第十九條ノ一 國民健康保険法中改正法律案

第十九條ノ二 療養ノ給付ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險醫及保險藥劑師並ニ組合ノ指定スル者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ診療又ハ藥

劑ノ支給ヲ受クルモノトス

第十九條ノ三 保險醫又ハ保險藥劑師ハ個人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

ル者ニ就キ設立委員ヲ選任シ普通國民健康保険組合ヲ設立スペキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ設立委員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ規約ヲ作リ普通國民健康保険組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ其ノ設立ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

設立委員地方長官ノ定ムル期間内ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ地方長官ハ規約ノ作成ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ三 組合ハ設立ノ認可ヲ受けタル時又ハ前條第三項ノ規定ニ依リ規約ノ作成アリタル時ニ成立ス

第十三條 第十一條ノ規定ニ依ル組合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上組合員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ノハ總テ組合員ト爲ルモノトス

第十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通國民健康保険組合ノ設立アリタルトキハ其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員タル場合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上其ノ法人ノ社員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ法人ヲ指定シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上其ノ法人ノ社員タル場合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者及其ノ世帯ニ屬スル者ハ總テ被保險者ト爲ルモノトス但シ命令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條ノ五 保險醫若ハ保險藥劑師又ハ之ヲ使用スル者ガ療養ノ給付ニ關シ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ請求スベキ費用ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依

第十九條ノ四 保險醫及保險藥劑師ガ療養ノ給付ヲ擔當スルニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ定ム

第十九條ノ五 保險醫若ハ保險藥劑師又ハ之ヲ使用スル者ガ療養ノ給付ニ關シ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ請求スベキ費用ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依

勅令ノ定ムル所ニ依リ第二十一條ノ施設ヲ又ハ藥劑師ニ就キ地方長官之ヲ指定ストヲ拒ムコトヲ得

醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ハ正當ノ理由ナクシテ保險醫又ハ保險藥劑師タルコトヲ拒ムコトヲ得

醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲ使用スル者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ガ保險醫又ハ保險藥劑師タルコトヲ拒ムコトヲ得

第十九條ノ四 保險醫及保險藥劑師ガ療

ノ定ムル所ニ依リ第二十一條ノ施設ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ之ニ必要ナル費用ノ支出ヲ命ズルコトヲ得

第五十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ規定ニ依ル訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ組合ハ之ヲ行政廳ト看做ス

第五十四條中「ニシテ其ノ社員ノ爲ニ醫療ニ關スル施設ヲ爲スモノ」ヲ削ル

第五十四條ノ二 前條ノ許可ヲ受ケ普通國民健康保険組合ノ事業ヲ行フ法人ニ付其ノ地區内ニ於テ普通國民健康保険組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上其ノ法人ノ社員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ法人ヲ指定シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者及其ノ世帯ニ屬スル者ハ總テ被保險者ト爲ルモノトス但シ命令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條ノ二 前條ノ許可ヲ受ケ普通國民健康保険組合ノ事業ヲ行フ法人ニ付其ノ地區内ニ於テ普通國民健康保険組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者及其ノ世帯ニ屬スル者ハ總テ被保險者ト爲ルモノトス但シ命令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條ノ二 前條ノ許可ヲ受ケ普通國民健康保険組合ノ事業ヲ行フ法人ニ付其ノ地区内ニ於テ普通國民健康保険組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者及其ノ世帯ニ屬スル者ハ總テ被保險者ト爲ルモノトス但シ命令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ



係ニ在ル者ヲ含ム以下同ジ)若ハ直系卑屬ニシテ前二號ニ掲タル者ト同ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ又ハ前二號ニ掲タル者ノ直系尊屬ニシテ前二號ニ掲タル者ガ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ引續キ同一ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ

四 戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ配偶者若ハ直系卑屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之ト同一ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ又ハ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ直系尊屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之ト同一ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ又ハ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ直系尊屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之ト同一ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ又ハ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ直系尊屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之ト同一ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ

第二十條 扶助ヲ受クル者六年ノ徵役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同行ジ

第二十一條 扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者左ニ掲タル事由ノ一ニ該當スルトキハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズルコトヲ得

一 正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關シ地方長官ノ爲ス指示ニ從ハザルトキ  
二 正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關スル検診又ハ調査ヲ拒ミタルトキ  
三 素行著シク不良ナルトキ又ハ著シク怠惰ナルトキ

第四章 給興金ノ支給

第二十二條 戰時災害ニ因リ死亡シタル者アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ遺族ニ對シ給興金ヲ給ス戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者本法ニ依リ救助ヲ受クルトキハ救助ヲ受クルノ間其ノ者ニ對シ扶助ヲ帶ニ在ルモノ

扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ニルコトヲ得ズ

第十七條 扶助ノ種類左ノ如シ

一 生活扶助  
二 療養扶助  
三 出產扶助  
四 生業扶助

第十八條 扶助ハ戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル時ヨリ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ経過シタルトキハ之ヲ爲サズ

扶助ノ程度及方法ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 扶助ヲ受クル者死亡シタル場

第二十三條 戰時災害ニ因リ住宅(水上生活者ノ居住ノ用ニ供スル舟ヲ含ム)又ハ家財ノ滅失又ハ毀損アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有者ニ對シ給興金ヲ給ス

第二十四條 業務ノ性質上戰時災害ニ因ル危害ヲ顧ミルコト能ハズシテ業務ニハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ埋葬合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行ヒ又ハ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトヲ得

第二十一條 扶助ヲ受クル者六年ノ徵役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同行ジ

從事スルコトヲ要スル者當該業務ニ從事中戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ニ對シ給興金ヲ給ス此ノ場合ニ於テハノ支給ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキハ其ノ者ニ對シ給興金ハ之ヲ給セズルコトヲ得

第二十五條 正當ノ理由ナクシテ給興金ノ支給ニ關スル

第五章 雜則

第二十六條 本法ニ依ル保護ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル公費ノ救助又ハ扶助ニ非ザルモノトス

第二十七條 本法ニ依リ給興ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第二十八條 本法ニ依ル給興金品ハ既ニ給興ヲ受ケタルト否トニ拘ラズ之ヲ差押フルコトヲ得ズ

第二十九條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六章 罰則

第三十條 第七條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ六月以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 詐偽其ノ他ノ不正ノ手段ニ依リ保護ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ハ六月以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル當該官吏若ハ當該吏員ノ立

○國務大臣(小泉親彦君演壇ニ登ル)  
國務大臣小泉親彦君演壇ニ登ル只今議題トナリ改正法律案竝ニ國民醫療法案ニ付テ提案ノ理由ヲ御説明申上げマス、大東亜戰爭ノ目的完遂ノ爲ニハ、心身共ニ剛健ニシテ、大東亜共榮圈内ノ如何ナル地域ニモ雄飛シ得ル不撓不屈ナル多數ノ國民ヲ保持スルコトガ、絕對ニ必要デアルト存ズルノデアリマス、是ヲ以テ政府ニ於キマシテハ特ニ主眼目ヲ、第一ニハ青壯年層ノ體力鍊成ト結核豫防ニ、第二ニハ結核其ノ他ニ對スル適正ナル醫療施設ノ普及ニ、第三ニハ我ガ民族悠久ノ發展ノ爲缺クベカラザル乳幼兒、妊娠産婦ノ保護ニ置キマシテ、國民體力ノ向上ニ關スル綜合的方策ヲ樹立シ、之ガ實效ヲ舉グルニ萬遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、而シテ之ガ爲ニハ、國民體力向上ニ資スル根本法ト致シマシテハ、曩ニノ指導體制ヲ整備確立スルコトト、醫療體制ヲ整備充實スルコトトガ、何ヨリモ肝要デアルト存ズルノデアリマス、國民體力ノ向上ニ資スル根本法ト致シマシテハ、曩ニ各位ノ御協贊ヲ得テ成立致シマシタ國民體力法ヲ既ニ實施致シテ居リマシテ、未成年者ノ體力向上ニ努メテ參ツタノデアリマス

入検査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ同僚第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

## 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣小泉親彦君演壇ニ登ル)

ニ對スル延長給付ハ從來任意給付デアリマシタガ、之ヲ法定給付ト致シ、且其ノ内容度ヲ整備シタコト等デゴザイマス、次ニ國民健康保険法ノ改正ノ要點ヲ申上ダマスルト、第一ニハ、從來普通國民健康保険組合ノ設立ハ任意デアリマシタノヲ改メマシテ、必要ニ應ジ強制設立ヲ命ジ得ルコト致シマスルト共ニ、組合ニ對スル強制加入ノ制度ヲ強化致シマシテ、第二ニハ、健康保険ニ於ケルト同様ニ、保険醫ノ制度ヲ整備其ノ他ノ若干ノ改正ヲ致シタコトデゴザイマス、最後ニ戰時災害保護法案ニ付テ提案ノ理由ヲ御説明申上ダマス、今後戰局ノ推移ニ伴ヒマシテ、敵國航空機ノ來襲等ノ場合、之ニ因ツテ生ズル戰時災害ノ爲ニ危害ヲ受ケタルモノヲ保護シ、戰時災害ニ對シ何等ノ不安ヲモナカラシメ、戰時下ニ於ケル國民生活ノ安固ヲ圖リマスルト共ニ、其ノ士氣ノ昂揚及ビ民心ノ安定ヲ期スルコトハ極メテ肝要ナリト考ヘルノデアリマス、然ルニ現行ノ制度ヲ以て致シマシテハ、戰時災害ニ對スル保護ノ完璧ヲ期スルコトハ甚ダ案ヲ提出スルニ至ツタ次第デアリマス、本法護ニ關スル法律ヲ制定スルコト致シ、本困難デアリマスルノデ、茲ニ戰時災害ノ保護ニ關スル法律ヲ制定スルコトヲトコト致シ、本案ハ、戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケマシタ者ヲ應急的又ハ一定ノ期間繼續的ニ保護シ、又ハ其ノ更生ヲ便ナラシムルコトヲ目的トスルモノデゴザイマシテ、保護ノ内容ヲ簡

單ニ申上ゲマスレバ、第一ニハ罹災者ノ應急救助デゴザイマス、是ハ現ニ救助ヲ必要トスル罹災者ニ對スル炊出又ハ醫療ヲ行ヒ、食糧、被服、寢具其ノ他ノ生活必需品ヲ給與シ、又ハ假住宅ヲ供與スルモノデアリマス、第二ニハ生活困難者ニ對スル扶助デアリマス、是ハ災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ若シクハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合、之ガ爲生活困難トナリタル本人、其ノ家族又ハ遺族ニ對シマシテ生活、療養、出産、生業等ノ扶助ヲ爲スモノデアリマス、第三ニハ災害ヲ受ケタル者ニ對スル給與金ノ支給デアリマス、是ハ災害ニ因ル死亡者ノ遺族又ハ不具廢疾者ニ對シマシテ、死亡給與金又ハ障害給與金ヲ支給シ、或ハ住宅、家財等ヲ滅失又ハ毀損セラレタル者ニ對シマシテ、其ノ更生ニ便ナラシムル爲若干ノ給與金ヲ支給スルモノデアリマス、尙業務上戰時災害ニ因ル危害ヲ顧ミルコト能ハザルガ、其ノ業務ニ從事中傷痍ヲ受ケ若シクハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ、一般人ノ場合ヨリモ給與金ノ支給程度ヲ高メテ給シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、以上五件ノ法律案ニ付テ御説明申上ゲタノデアリマスルガ、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ切望致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議  
ニ御異議ハゴザイマ セヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔高山書記朗讀〕

國民體力法中改正法律案外四件特別委員

公爵島津 忠承君 侯爵筑波 藤麿君

侯爵久我 通顯君 侯爵副島 道正君

子爵實吉 純郎君 子爵京極 高修君

子爵高木 正得君 松井 茂君

河原田稼吉君 安井 英二君

下村 宏君 男爵井上 清純君

男爵高木 喜寛君 男爵山根 健男君

中川 望君 小坂 梅吉君

田部長右衛門君 野田六左衛門君

○議長(伯爵松平頼壽君) 次會ノ議事日程  
ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、  
本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時十九分散會

